

## 「桑折町総合計画審議会」(桑折町)(令和2年度)

ふくしま自治研修センター  
総括支援アドバイザー兼教授 奥原 英彦

## 「桑折町新総合計画審議会」(桑折町)(令和2年度)

桑折町では、令和2年度から「新総合計画」の策定に着手(注1)し、「桑折町総合計画審議会」を開催。

奥原は審議会の会長として、(コロナ禍ではあったが)下記の支援を行った。

- (1) 2回の「審議会」の「運営」及び「総括と政策展望」  
(8/7(注2)、11/4(注3))、ワーキング(12/14)(注4)
- (2) 2回の「こおり未来会議」(注5)への参加(9/26、10/3)と総括(注6)

(注1) 桑折町広報誌(2020年5月号):住民の夢を計画する総合計画

(桑折町ホームページ) [20200502.pdf \(town.koori.fukushima.jp\)](https://www.town.koori.fukushima.jp/20200502.pdf)

(注2) 8/7(各委員が描く10年後の桑折町)における各委員発言の総括と政策展望

- ① 桑折町らしい個性のある町になってほしい。  
買物空間にしても、農業や商工業などの振興策についても、(人まねではなく)桑折町らしい個性が光る町になって欲しい
- ② 新しい動きを先取りしたような町にして欲しい  
時代と共に、更には直近ではコロナ禍で、生活様式・ライフスタイルや価値観がどんどん変化している。国や県を先取りしたような政策を打ち出し、それらの新しい動きを先取りしたような町になって欲しい。
- ③ 全世代の方と生活できるような地域になってほしい  
お子さんがとなりの家に遊びに行けない、高齢者の方が独居になってしまう、というように形で世代がバラバラになってしまうのではなく、全世代の方が買い物をしに歩いて行くことができ、そこでいろいろな世代間での交流ができるようなまちづくりをして欲しい

(注3) 11/4における各委員発言の総括と政策展望

- ① 他自治体と比較してもメリハリがついた計画と特色を持たせることが、(桑折町の)ブランド化にもつながる。
- ② 行政が全て(公助)だけでなく、地域(共助)・個人(自助)も参加してシンクロする必要がある。しかし、それぞれ(の壁を乗り越えられない)ハードルがあつてうまく進んでいない点がある。これらに対して行政が支援することで、「共助」意識を育てることができる。特

に、町がコンパクトであることを活かして早急に取り組む必要がある。

- ③ わかりやすい言葉で町民に語りかける計画とすることで、みんなに問題意識を持ってもらうことができる。

(注4) (12/14) 事務局作業進捗時に会長（奥原）がアドバイスするもの

(注5) 町民の方々の意見を総合計画に反映させるため、町長と直接意見交換をする場。  
[20201104.pdf \(town.koori.fukushima.jp\)](#)

(注6) 未来会議での奥原総括コメント

『今回の「こおり未来会議」では、若い世代の中でも、町にずっと住み続けてきた人や町に戻ってきた人、移住してきた人など、さまざまな立場の人から貴重な意見を聞くことができました。皆さんの意見を聞いて「自分たちが自慢したい、ワクワクできる町にしたい」という思いを強く感じました。

計画づくりは行政だけではできません。町民の声の中から、ヒントを拾い上げていくことが大切です。これまでのアンケート調査や会議で出された意見を踏まえて、より多く町の皆さんの思いが込められた町総合計画をつくりたいです。』

以上